

未来を担う子どもたちを応援

ことも未来応援教室 レポート

「今できることプロジェクト」の柱となる活動の一つで、地域の未来を担う子どもたちを応援する「子ども未来応援教室」。2017年度は、3月4日(日)に尚絅学院大学のキャンパスで開催しました。子どもたちに、目指すべき将来像を思い描き、これからの時代への期待を高めてもらうため、午前の部の授業ではプロジェクト賛同企業などによる独自の授業「社会科学習」を4クラス実施。午後の部は、子どもたちの関心が高いシゴトについて、プロの方から授業を行ってもらい、そのシゴトを体験する「シゴトワークショップ」を6クラス行いました。会場は、好奇心いっぱい目を輝かせる約240人の子どもたちで大いに賑わいました。

午前の部 社会科学習

面白い授業を通して、好奇心が刺激されます。知識が広がります。企業のごことが、今までよりもっと身近に感じられるようになりました。

授業1 Pepper(ペッパー)のプログラミング教室

●提供/ソフトバンク

ソフトバンクロボティクスが開発を手掛けている話題の「Pepper」。生き生きとしたコミュニケーションが可能な、最先端の技術が詰まったこの人型ロボットの仕組みについて学び、さらにプログラミングソフト「Choregraphe(コレグラフ)」を使って思い通りの動作をさせるアプリケーションを作成しました。子どもたちは数人ずつのグループに分かれ、スタッフの指導の下、PC端末にプログラムを入力。お互いどんな操作をするか相談しながら、会話や動作を決めていきました。最後は、グループごとにアプリケーションの出来を発表。Pepperのユニークなおしゃべりの連続で、教室には笑いや拍手が巻き起こりました。



参加者の声 ● Pepperを動かすのが、予想以上に難しかったです。将来、こんな仕事に就きたいと思いました。 ▶佐藤 麟太郎さん(12)
●キーボードを打つのは大変だったけど、Pepperの動作が面白かったです。 ▶米原 達彦さん(11)
●同じグループの人の意見と自分の意見を組み合わせて、プログラムを作ることができて良かったです。 ▶安田 尚弘さん(11)

授業2 「お金のひみつー自分の会社を作ってみようー」ワークショップ

●提供/大和証券

約80人の子どもたちが集まった教室には、大和証券仙台支店の米丸淳司さんが講師として登場。前半は、「会社の仕組みを学ぼう」と題して、世界にはどんな仕事があって、どのくらい多くの会社が経済を支えているかを学びました。後半は、「ゲームで学ぼうお金のひみつ」をテーマにしたワークショップを実施。グループごとに分かれて、今年の3月2日と1年前の同日に発行した2つの新聞の株式欄を見比べながら、出題された企業の名前と株価の終値を探るゲームにチャレンジしました。最後に、米丸さんは「たくさん勉強すれば、将来の可能性は必ず広がりますから頑張ってください」と会場にエールを送りました。



参加者の声 ● 今度は、実際に会社を作る学習を体験してみたい。 ▶西澤 早大さん(11)
●株というものが何かわからなかったけど、この授業で分かったのが良かった。 ▶佐々木 優奈さん(12)
●今まで知らなかったお金のことや会社のことなどが分かって、とても良い経験になりました。 ▶高比良 碧海さん(11)

授業3 「カルピス」こども乳酸菌研究所

●提供/アサヒグループホールディングス

アサヒグループの教室で行われたのは、子どもたちに大人気の飲み物「カルピス」を使った実験です。「カルピスは約100年前に誕生しました。乳酸菌と酵母からできています」と教えてもらった子どもたちは、早速通常の牛乳と乳酸菌や酵母で発酵させた発酵乳を飲み比べ。発酵させた方はすっぱくなったため、今度はpH試験紙を使って牛乳、「カルピス」の原液、レモン汁の酸性度を調べ、「カルピス」がレモン汁に近いすっぱさであることを確認しました。乳酸菌が進めば発酵したものの味や性質も異なります。現在発見されている乳酸菌はなんと約400種類。最後は、将来どんな乳酸菌が見つかったらいいかアイデアを出しました。



参加者の声 ●「カルピス」がどうやって「カルピス」になるのかをくわしく話してくれてとてもおもしろかったです。 ▶深辺 吉さん(10)
●グループみんなと実験ができてよかった。最後の「カルピス」でのんべいがかたのしかった。 ▶高杉 奈月さん(10)
●乳酸菌がどういふものかわからなかったけど、これら「カルピス」を飲むときは乳酸菌を意識したいです。 ▶佐藤 珠莉さん(10)

授業4 紙抄き体験と新聞紙を使った実験

●提供/日本製紙

新聞は情報ツールとしてだけではなく、日常生活でもさまざまな場面で役立ちます。授業では新聞紙が持つ保温・除湿効果に注目。保温性が高いため、肌着と上着の間に新聞紙を挟めば災害時の防寒対策にも使えることが紹介されました。また湯気が充満した箱に入れた新聞紙が湿気を吸い取る様子を確認しました。「紙はパルプと水から作られています」と紙作りの仕組みを教えた後は実際に紙抄き体験に挑戦。水で溶かしたパルプを型の中に入れてからアイロンで乾かします。機械とほぼ同じ流れでハガキが完成すると、子どもたちの笑顔は達成感で満ちあふれていました。



参加者の声 ●新聞紙をたてにやぶるときれいにやぶれたけど、よこにやぶるときれいにやぶれないのがおもしろかったです。 ▶宮武 舞さん(8)
●新聞のしくみがわかった。新聞で温かいものを包むと温かいままだということがわかった。 ▶佐藤 久治さん(12)
●新聞紙はいろんなものに使ってできるんだと思った。せんで紙ができていくというのがふしぎだった。 ▶相澤 果歩さん(10)

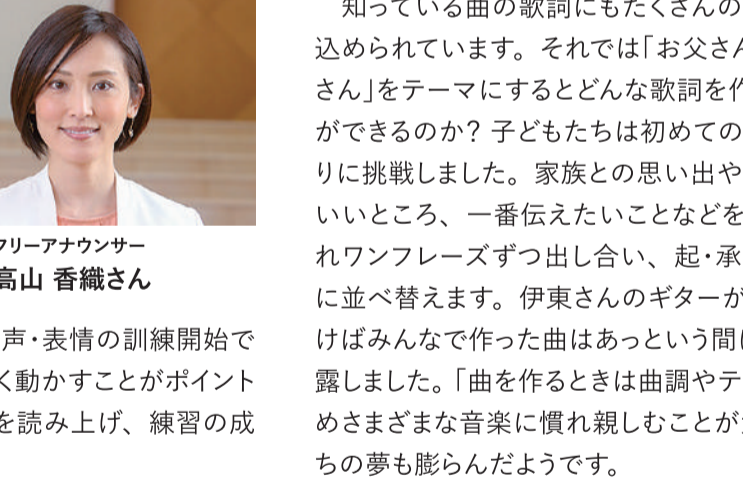
午後の部 シゴトワークショップ

このシゴトをするには、どんなことが大切なのかな? いっしょに学んで、一生懸命質問して、とても楽しい授業でした。

アナウンサーのお仕事

「伝わる」話し方を身に付けるために

ニュースやバラエティ番組の司会など、テレビに欠かせないアナウンサー。高山さんは特に、正しい姿勢とマナー、きちんとした言葉遣いに気を付けることが重要だと話しました。「話す」ことは誰にでもできることですが、「伝える」ことはなかなか難しい。ひともの出来事を、多くの人の心に響くように伝えることが、アナウンサーの最も大切な仕事です」という言葉に真剣に耳を傾けた後は、いよいよ姿勢・発声・表情の訓練開始です。後に手を組んで行った発声練習では、「口元を大きく動かすことがポイントです」とアドバイス。最後は実際に用意されていた原稿を読み上げ、練習の結果を見せていました。

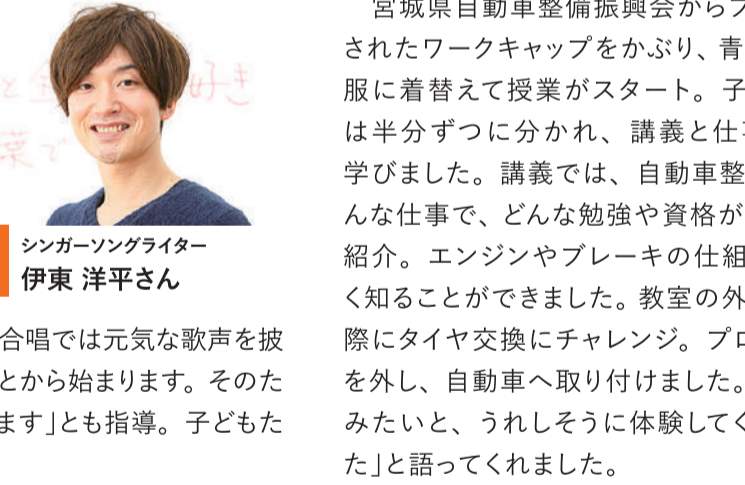


参加者の声 ● 学んだことを学校でも生かしたい。 成田 絢香さん(11)
● 将来はアナウンサーを含めテレビに出るような仕事をしたいと考えています。学校では放送委員会に所属しているの、今日教わった姿勢や声のトーン、表情などを意識して委員会の活動に生かしていきたいと思いました。また日頃から言葉遣いにも気をつけたいです。

音楽・歌手のお仕事

初めて作った曲は、大好きな家族へ!

知っている曲の歌詞にもたくさん意味が込められています。それでは「お父さん・お母さん」をテーマにするとどんな歌詞を作ることができるのか? 子どもたちは初めての歌詞作りに挑戦しました。家族との思い出や家族のいいところ、一番伝えたいことなどをそれぞれワンプレーズずつ出し合い、起・承・転・結に並べ替えます。伊東さんのギターが鳴り響けばみんなで作った曲はあっという間に完成。最後の合唱では元気な歌声を披露しました。「曲を作るときは曲調やテーマを決めることから始めます。そのためさまざまな音楽に慣れ親しむことが大事になってきます」とも指導。子どもたちの夢も膨らんだようです。

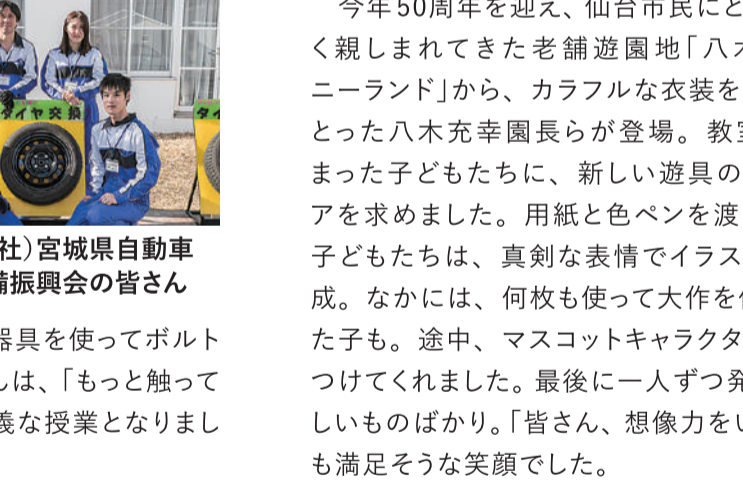


参加者の声 ● 音楽への興味がますます強くなった。 大友 香穂さん(9)
● 保育園に通っていた頃からピアノを習っていたので、音楽の仕事にはとても興味がありました。曲を演奏することはあっても歌詞を作ったことは一度もなかったのでもって楽しかったです。歌詞を考えているときに伊東さんにアドバイスをもらい、優しい先生だなと思いました。

自動車整備士のお仕事

生活の足として欠かせない自動車のお医者さんに

宮城県自動車整備振興会からプレゼントされてきた老舗遊園地「八木山ペニーランド」から、カラフルな衣装を身にまとった八木充幸園長が登場。教室に集まった子どもたちに、新しい遊具のアイデアを求めました。用紙と色ペンを渡された子どもたちは、真剣な表情でイラストを作成。なかには、何枚も使って大作を仕上げた子も。途中、マスコットキャラクターの「ペニー」も応援のために駆けつけてくれました。最後に一人ずつ発表を行い、どのアイデアも独創的で楽しいものばかり。「皆さん、想像力をいかに発揮してください」と、園長も満足そうな笑顔でした。

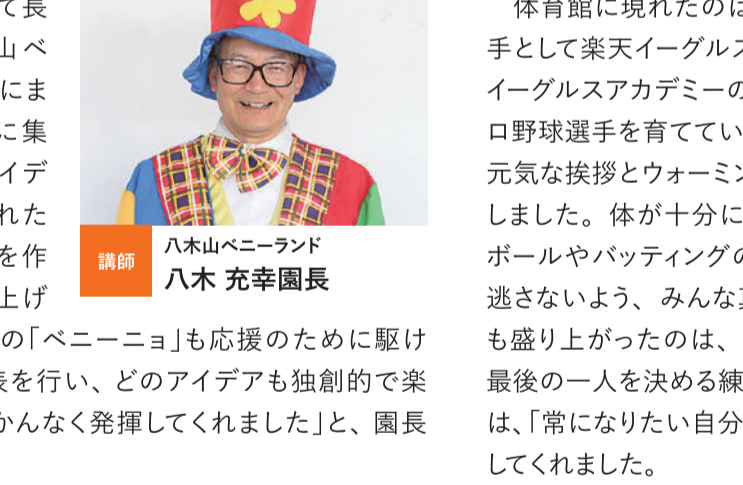


参加者の声 ● 冬にお父さんの手伝いを。 佐藤 颯さん(13)
● 乗り物に興味があったので、この授業に参加しました。タイヤ交換の体験では、ボルトを回す方向がすべて決まっていることを知り、自動車整備士の精密な仕事を知ることができました。お父さんが冬タイヤの履き替えをする時には、お手伝いをしたいです。

遊園地のお仕事

ユニークなアイデアの中に見つけ可能な遊具も!?

今年50周年を迎え、仙台市民にとって長く親しまれてきた老舗遊園地「八木山ペニーランド」から、カラフルな衣装を身にまとった八木充幸園長が登場。教室に集まった子どもたちに、新しい遊具のアイデアを求めました。用紙と色ペンを渡された子どもたちは、真剣な表情でイラストを作成。なかには、何枚も使って大作を仕上げた子も。途中、マスコットキャラクターの「ペニー」も応援のために駆けつけてくれました。最後に一人ずつ発表を行い、どのアイデアも独創的で楽しいものばかり。「皆さん、想像力をいかに発揮してください」と、園長も満足そうな笑顔でした。



参加者の声 ● 遊具の設計が楽しかった。 佐々木 愛さん(12)
● 遊園地には裏で支えてくれている人がたくさんいるのだということが分かりました。絵を描くことが好きなので、遊具を設計する時間がとても楽しかったです。園内を案内してくれる空飛ぶ列車を考えました。ペニーランドに飾ってほしいので、今度見に行こうと思います。

野球のお仕事

プロの技術に触れて野球がもっと大好きに

体育館に現れたのは、現役時代、先発投手として楽天イーグルスを支え、現在は楽天イーグルスアカデミーのコーチとして未来のプロ野球選手を育てている永井伶さん。まずは、元氣な挨拶とウォーミングアップからスタートしました。体が十分に温まった後、キャッチボールやバッティングの指導。一流の技を見逃さないよう、みんな真剣に臨みました。最も盛り上がったのは、グループごとに永井さんのノックをミスせず捕球し続け、最後の一人を決める練習。みんなが頑張っている姿に感心した様子の永井さんは、「常に足りない自分を意識して努力を続け、夢に近づいていって欲しい」と話してくれました。



参加者の声 ● ノックを受け切った! 青藤 幸永さん(12)
● 野球チームでは主にショートを守っているの、ノックの練習はとてもやがいを感しました。楽天イーグルスのファンなのでこの授業を受けることができてうれしかったし、一流選手のバッティングやピッチングを見ることができて、とてもためになりました。

郵便局のお仕事

間違えずに配達するための工夫がたくさん!

ポストに投函された郵便物は、一度全て1か所に集められ、機械によって宛先ごとに分けられます。その一連の流れを映像で確認した後、子どもたちは実際に仕分け作業を体験。郵便番号と住所が書かれたハガキを手早く区分棚に分類していきます。「スピードはもちろん、何より間違えないことが大事」と説明され、子どもたちも真剣に取り組んでいました。機械で読み込めない分は手作業で仕分けをするため、丁寧さも求められます。続いてトランプの並べ替えにも挑戦。郵便物は効率よく配達できるように配達順に並べられるため、カードを郵便物に見立てることで実際の郵便局員の仕事も体験しました。



参加者の声 ● アルバイト経験者の声がかっけに。後藤 詩汰さん(10)
● 郵便局のアルバイトを経験した人から「おもしろいよ」という話を聞いていたので郵便局を選択しました。仕分けの作業では、手早く効率よく分類できるようになりました。トランプの並び替えも楽し、話に聞いていた通りでした。

※参加者の年齢は3月4日現在の表記です。